



しゅうぶん

秋分（22日）… 暑さ寒さも彼岸までと言いますが…

例年になく厳しい残暑も、4連休を境にようやく収まり、秋の空気に入れ替わったように感じます。草むらの虫の音を聞き、空を見上げて、身近な自然の小さな移り変わりを感じ取れるようになると、日々の生活が豊かになっていくものです。まさに、日々是好日です。

<水始涸 みずはじめてかる 10月3日~7日>

秋分の末候は「水始涸」です。実りの秋を迎え、稲刈りのために田んぼの水を抜いていく頃という意味だそうです。

<かつての先生方の思いが繋がる自然環境>

先週の区教研の際に、かつて青南幼稚園に勤務していた先生から、裏庭の白い彼岸花は、十数年前に芋掘り遠足に行った先の畑から球根をもらって来て移植したものだと言いました。その近くに生えているミョウガも、その頃の先生たちが植えたものだそうです。フェンスに這って実っているブドウは、その頃の保護者の方からいただいた苗を植えたものだと聞いています。多くの皆さんの長期にわたる環境づくりの熱い思いに感謝したいと思います。

<絵本作家 甲斐信枝さん>

私の好きな絵本作家に甲斐信枝さんがいます。身近な自然へのまなざしが驚くほど優しい方です。かがくのとも絵本「ひがなばな」は、この植物の不思議な生態を鮮やかに紹介している甲斐さんの代表作の一つです。球根と根の関係など知らないことばかりで、甲斐さんの長期間にわたる自然観察の凄さを感じる内容です。

<命の営みを見つめるまなざし>

4年前にNHKで「足元の小宇宙～絵本作家・甲斐信枝とみつける命のドラマ～」というドキュメンタリー番組が放映されました。私はその番組を見て、改めて甲斐さんや自然の魅力に惹き付けられました。この彼岸花の様子を見ているだけでも、たくさんの発見があります。身近な自然の中にも、命のドラマは溢れているのです。



ほんの数日で満開になった赤い彼岸花



艶やかに咲く裏庭の白い彼岸花



裏庭にはミョウガも生えています



彼岸花の周辺の雑草を取った際に折れてしまった一本を花瓶に挿しておきました。翌日にはつぼみが半分だけ開き、またその翌日にはきれいに満開となりました。

水に浸かっていた茎の先がクルッと丸まっていたのも驚きでした。タンポポの茎でも同じようなことが起こります。おもしろいですね。